

あなたのそばで、力になりたい。 standbyyou

毎月28日は
いじめ防止対策
を考える日に

「#stand by you」は、アスリートとアーティストが協働して、いじめなどの悩みを「相談できずに苦しんでいる子」と「助けられなくて悩んでいる子」に、相談するきっかけと窓口を届けるプロジェクトです。



悩んでいるあなたへ

くにえだ しんご
国枝慎吾

1984生まれ。千葉県出身。ユニクロ所属。9歳の頃、脊髄腫瘍を発病し車いす生活を送ることとなる。その2年後、母の勧めをきっかけに車いすテニスと出会う。2004年アテネ ダブルスで金、2012年ロンドン シングルスで金、2008年北京 シングルスで金、ダブルスで銅、2016年リオ ダブルスで銅、さらにグランドスラムシングルス26勝、年間グランドスラム5回等前人未達の記録を達成。



なにげない一言をくれた友だち、 家族にありがとう。

好きなスポーツを好きなだけやる。
好きなところに行きたいときに行く。

そんなあたりまえのことが、もし急にできなくなったら、みんなはどんな気持ちになるかな？

僕は小学4年生のとき、急に腰が痛くなって、病院に入院することになったんだ。友だちと野球をするのが毎日の楽しみで、からだを動かすのが大好きなスポーツ少年。それが突然、病気になって、もう自分の足で歩けなくなり、これから車いすで生活することを知って、最初は本当にショックだった。

きっとみんなも、もし急に歩けなくなったら、つらくて、かなしくて、やりきれない気持ちになると思う。「ああ、もう好きなことができなくなっちゃうのか」と僕も思った。

でもね、退院して、車いすで学校に行ったら、友だちにこう言われたんだ。
「しんご、バスケやろうぜ！」

マンガの『スラムダンク』が友だちのあいだで大はやりで、知らないあいだに、みんなバスケットボール部に。

「あれ、野球はどうしたの？」と思ってちょっとびっくりしたけど、それからは、来る日も来る日も友だちとバスケをするようになったんだ。

僕は車いす。だから友だちはすこし気にしていたけど、すぐに忘れて、車いすなんてお構いなしにぶつかってくる。僕はしょっちゅう倒れる。それでも友だちはがんがん来る。やっぱり倒れる。



僕はうまくなりたいから、放課後のあとにひとりで練習。そしたら、車いすを使うのも上手になって、チームメンバー分けて早く選ばれるようになったんだ。

みんなで野球をやって、思いっきり楽しむ。それと同じくらいのよろこびを、歩けなくなっても味わえたことが、ほんとうにうれしかったなあ。

みんなのまわりには、僕みたいな、みんなとはちょっと違う子、ちょっと変わっている子、いるかな？ そういう僕みたいな人がいると、最初はどやって声をかけたらいいか、何をしたらいいか、たぶんよくわからないよね。

実は僕も、車いすで学校に行くとき、これから友だちと何をして遊ぶんだろう？ これまでみたいにはできないのかな？と、不安だった。だから、僕も友だちも、おんなじ気持ち。

その不安な気持ちが、パーンとはじけたのは、友だちの「いっしょにあそぼうぜ」という、なにげない一言だったんだ。あの一言があって、いまの僕がある。

ふりかえると、僕はなにげない一言に、なんどもなんども助けられたんだ。
「車いすテニス、やってみない？ 近くに車いすテニスの教室があるんだけど」という母親の一言。
「おお、しんごくん、いいスイングだね」という憧れの選手の一言。
「パラリンピック、今回は出られなくても、別にいいじゃない」という妻の一言。
そして、僕を応援してくれているファンの人が試合中に言ってくれた一言。

教室を見わたすと、みんなのまわりに、いつもとちがって元気がなさそうな友だちがいるかもしれない。悲しそうにしている、困っているように見えるクラスメートがいるかもしれない。

もし、そういう子がいたら、なにげない一言を、かけてみてほしいな。
「いっしょにあそぼうぜ」とか、「元気？ どうしたの？」とか。

そういう、なにげない一言をくれた小学校と中学校のときの友だちが、僕にとって、いまでも一番の友だちなんだ。

(記事編集・山下智也)

相談窓口一覧

なやみ言おう
#「24時間こどもSOSダイヤル(文部科学省)」:0120-0-78310

#「こどもの人権110番(法務省)」:0120-007-110

#「いのち支える窓口一覧」で検索

#10代のための相談窓口「Mex」で検索



あなたのそばで、力になりたい。 standbyyou

毎月28日は
いじめ防止対策
を考える日に

「#stand by you」は、アスリートとアーティストが協働して、いじめなどの悩みを「相談できずに苦しんでいる子」と「助けられなくて悩んでいる子」に、相談するきっかけと窓口を届けるプロジェクトです。



悩んでいるあなたへ

くにえだ しんご
国枝慎吾

1984生まれ。千葉県出身。ユニクロ所属。9歳の頃、脊髄腫瘍を発病し車いす生活を送ることとなる。その2年後、母の勧めをきっかけに車いすテニスと出会う。2004年アテネ ダブルスで金、2012年ロンドン シングルスで金、2008年北京 シングルスで金、ダブルスで銅、2016年リオ ダブルスで銅、さらにグランドスラムシングルス26勝、年間グランドスラム5回等前人未到の記録を達成。



なにげない一言をくれた友だち、 家族にありがとう。

好きなスポーツを好きなだけやる。
好きなところに行きたいときに行く。

そんなあたりまえのことが、もし急にできなくなったら、みんなはどんな気持ちになるかな？

僕は小学4年生のとき、急に腰が痛くなって、病院に入院することになったんだ。友だちと野球をするのが毎日の楽しみで、からだを動かすのが大好きなスポーツ少年。それが突然、病気になって、もう自分の足で歩けなくなり、これから車いすで生活することを知って、最初は本当にショックだった。

きっとみんなも、もし急に歩けなくなったら、つらくて、かなしくて、やりきれない気持ちになると思う。「ああ、もう好きなことができなくなっちゃうのか」と僕も思った。

でもね、退院して、車いすで学校に行ったら、友だちにこう言われたんだ。
「しんご、バスケやろうぜ！」

マンガの『スラムダンク』が友だちのあいだで大はやりで、知らないあいだに、みんなバスケットボール部に。

「あれ、野球はどうしたの？」と思ってちょっとびっくりしたけど、それからは、来る日も来る日も友だちとバスケをするようになったんだ。

僕は車いす。だから友だちはすこし気にしていたけど、すぐに忘れて、車いすなんてお構いなしにぶつかってくる。僕はしょっちゅう倒れる。それでも友だちはがんがん来る。やっぱり倒れる。



僕はうまくなりたいから、放課後のあとにひとりで練習。そしたら、車いすを使うのも上手になって、チームメンバー分けて早く選ばれるようになったんだ。

みんなで野球をやって、思いっきり楽しむ。それと同じくらいのよろこびを、歩けなくなっても味わえたことが、ほんとうにうれしかったなあ。

みんなのまわりには、僕みたいな、みんなとはちょっと違う子、ちょっと変わっている子、いるかな？ そういう僕みたいな人がいると、最初はどやって声をかけたらいいか、何をしたらいいか、たぶんよくわからないよね。

実は僕も、車いすで学校に行くとき、これから友だちと何をして遊ぶんだろう？ これまでみたいにはできないのかな？と、不安だった。だから、僕も友だちも、おんなじ気持ち。

その不安な気持ちが、パーンとはじけたのは、友だちの「いっしょにあそぼうぜ」という、なにげない一言だったんだ。あの一言があって、いまの僕がある。

ふりかえると、僕はなにげない一言に、なんどもなんども助けられたんだ。
「車いすテニス、やってみない？ 近くに車いすテニスの教室があるんだけど」という母親の一言。
「おお、しんごくん、いいスイングだね」という憧れの選手の一言。
「パラリンピック、今回は出られなくても、別にいいじゃない」という妻の一言。
そして、僕を応援してくれているファンの人が試合中に言ってくれた一言。

教室を見わたすと、みんなのまわりに、いつもとちがって元気がなさそうな友だちがいるかもしれない。悲しそうにしている、困っているように見えるクラスメートがいるかもしれない。

もし、そういう子がいたら、なにげない一言を、かけてみてほしいな。
「いっしょにあそぼうぜ」とか、「元気？ どうしたの？」とか。

そういう、なにげない一言をくれた小学校と中学校のときの友だちが、僕にとって、いまでも一番の友だちなんだ。

(記事編集・山下智也)

相談窓口一覧

